

「頑張れ」「戦争終わらせて」。激励、期待相次ぐ

近畿
いっせい
宣伝
最大の規模に

受け取り拒否など否定的状況も 攻勢的取り組みがカギ

「戦争か平和か—日本の進路が問われる参院選で日本共産党の躍進を」と8日、近畿いっせい宣伝が行われました。京都は、知事選最終盤のため参加できませんでしたが、408カ所で20.7%の支部、1748人、216議員が2万7枚のピラを配布。取り組んだ5府県では衆院選後、最大規模になりました（6府県が参加した3月は455カ所）。「普段よりピラの受け取りが良く、駆け寄って受け取る人も」（奈良地区）、「頑張ってください」「早く戦争を終わらせて」という声（東大阪）や多くの募金、激励・期待が寄せられました。一方、「ピラの受け取りを拒否」、「ピラを目の前で破るなど」「ロシアと共産党は一緒か」の声など否定的な状況もありました。「受動的に情勢に対応するならば、選挙に勝つことはできない」「しかし攻勢的に対応するならば、必ずや勝機をつかむことができる」（7日、都道府県委員長会議での志位委員長のまとめ）ことが示されました。

●主な反応

＜滋賀＞野洲市の JR 野洲駅前では、石堂あつし参院滋賀選挙区候補らが訴え。「国際世論でロシア包囲を」と書いたピラを受け取って、すぐ読む市民の姿が（湖南地区）

＜奈良＞北野いつ子参院奈良選挙区候補は、大和郡山市の近鉄・九条駅前で党後援会員と宣伝。「ロシアのウクライナ侵略を許さない。いまこそ、憲法9条を守り生かすとき。世論と外交の力で戦争をストップさせましょう」と訴え。駅利用者から激励の声（北和地区）。

＜兵庫＞阪神センタープール駅では新規の人がピラを受け取る。ウクライナ支援募金 8687 円（尼崎地区）。兵庫県委員会は、神戸市の元町駅前でも4月4日から5日間連続宣伝にとり組み、こむら潤参院兵庫選挙区候補が後援会員、勤務員らと訴え。こむら候補は、日本の核兵器禁止条約への参加やコロナ対策の拡充、新自由主義路線からの転換など「平和の憲法9条を守り抜き、命と暮らしが守られる政治の実現に力を尽くします」と決意を述べ、支援を訴え。

＜大阪＞藤井寺駅南側で「しんぶん赤旗」見本紙を1時間で30部配布。20代、40代の男性（初顔）が手に取ってくれた。（河南地区）

会場いっぱい、勝利へ熱気

大阪・枚方 市田、大門、たつみ氏が訴え

参院選へ党と後援会の「躍進のつどい」が9日、大阪・枚方市芸術文化総合センターで行われ、市田忠義副委員長・参院議員、大門みきし参院議員・比例候補、たつみコータロー前参院議員・選挙区候補が訴え。一階は立ち見の人が出る熱気あるつどいとなりました。一人が入党を決意しました。

たつみ氏は、維新批判の広がりなど情勢の変化につい

てのべ、大門氏は大阪のカシノ計画のずさんさ、「やさしく強い経済」を社会保障、ジェンダー平等と結びつけて話しました。市田氏はウクライナ問題を述べる中で、日本に対し急迫不正の主権侵害があった場合、自衛隊を含めあらゆる手段を行使して国民の命を守る—これは20年前からの党の方針だと指摘。「憲法9条は戦力不保持であるが、無抵抗主義ではない。このことをもっと知らせる必要がある」と強調しました。



22近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 16(2022.4.11)